

### 木の岡ビオトープ（琵琶湖岸ビオトープ） 探索路整備・保全活動

おにぐるみの学校



「木の岡ビオトープ」の定期的な保全活動（ゴミ拾いや除草、探索路の維持管理、観察広場の整備）のほか、老朽化した順路標識のリニューアルを行った。

また、地域に開かれた環境学習の場として、地元の小学生や親子を対象に自然観察会や自然教室（クラブ体験等）を開催した。

### 晴嵐学区を築き、育んできた三田川をわが町ふるさと晴嵐、 河川を活かしたまちづくり事業

三田川水辺のふれあい広場運営協議会



地域の方々の憩いの場として利用されている「三田川ふれあい広場」の清掃活動をはじめ、樹木の剪定、屋外掲示板の設置などの環境整備を行った。

また、子ども達の環境学習の場として、幼稚園や他団体等と連携し、生き物調査や清掃活動を実施した。

### 里山の中で木と共生することを学ぶ事業

森の実験室



里山を守り、育てることを目的に、植林や放置林の枯れ木、倒木を整備する里山整備活動、人材育成のための「チェーンソー講座」を実施した。

また、里山と人をつなげる事業として「木とつながるマルシェ」等を開催。幅広い層の方々にご参加いただき、森や木への関心を高めてもらうことができた。

### 巨椋池干拓地におけるグリーンインフラ機能を活かした 地域づくりに向けての情報共有

淀川愛好会



巨椋池干拓地の一部遊水機能の復活や、湿地化による自然環境の復元など、グリーンインフラを活かした地域づくりに向けた資料の収集、整理を行った。

また、その効果と課題について現地調査を行い、近畿河川フォーラムにおいて、地域住民や大学研究者の皆さまとの意見を交換を行った。

### 丹後語り部の会語り部動画制作・活用事業

丹後語り部の会



京丹後地域の魅力を伝える「語り部動画」を制作するため、語り部資源の現地調査や動画づくりチャレンジ講座を実施し、3月に発表会を開催した。

また、次代の担い手育成のため、地元の高校と連携し、活動支援を進めている。本事業を通して、地域の活性化と資源継承に大きな役割を果たすことができた。

### 八幡の水文化・プロジェクト2024 ー大阪万博に向けてー

カッパ研究会



2025年大阪万博開催を機に、淀川の舟運事業が進んでいる状況を踏まえて、舟路の重要な地点となる八幡市の水文化を紹介する「八幡水文化・プロジェクト2024 ー大阪万博に向けてー」を展開。冊子「八幡の水探訪」の作成に加え、フォーラム、現地ガイドツアー等を開催した。

### みんなで考えよう防災意識 困ったときのみんなの防災井戸

橋本堂ヶ原町内会



親子防災研修として「北淡震災記念公園 野島断層保存館」への日帰り研修会を実施。住民が地域の防災士さんと共に町内を歩き、消火栓や備蓄品、避難経路等について確認した。地域で起こりうる災害や町内会の防災のあり方について話し合う機会になった。また、防災井戸の必要性について考える良い機会も得られた。

### つけかえ320周年 大和川で学び あそぼう

大和川市民ネットワーク



大阪の地形や産業、暮らしを大きく変えた大和川の付け替えから320年。工事竣工日の10月13日に「第17回『大和川の日』市民のつどい」を開催。大和川を愛する市民が一堂に会し、大和川かるたや今昔写真展、フォーラムなどを楽しんだ。

また、320周年記念として「大和川つけかえ史跡探訪ガイドブックIV 堺・大阪コース」を刊行。今後の取り組みに活かしていきたい。

### コウノトリもすめる環境づくりのため、農業と自然をまもる活動

Toyouka AgRestart



コウノトリも住める豊かな環境づくりの一環として、地域住民とともに耕作放棄地の棚田の再生活動や地域農業の担い手である兼業農家の困りごとを具体的に解決していくための支援を行った。

また、農村交流事業や環境学習会を開催。地域住民や都市部の方々の参画を促し、農村のあり方について共に学ぶ機会とした。

### 丹波佐吉でつなぐ地域活性化事業

風景街道「伊勢街道」連絡協議会



江戸末期に「日本一」と称された名工、丹波佐吉の石造物を、身近な歴史的資産として地域の方々に再認識してもらい、活用や保全に向けた活動へつなげるため、写真集を作製し、写真展、ギャラリートーク、「第2回全国石工佐吉サミット」等を開催した。各地からも石造物に関心を持つ人々が集まり、交流と相互理解を深めることができた。

